

4. 防災に関する情報発信のプロジェクト

●LINE による防犯と防災の情報発信

自治会からの情報発信の一つの手段として LINE の公式アカウントの活用をしています。通常時は、主に地震・台風・火事等の「災害」や、不審者・痴漢の出没等の「防犯」に関する注意喚起等【緊急情報】をお届けしています。緊急時には、LINE を読んでいない人にも声を掛け合い、情報を元に自己判断で行動することに努めましょう。

●防災講座などの定期開催

●ニュースの発行やウェブサイトの構築

●避難経路のハイキングを兼ねた定期点検など

●自宅避難など各自の準備の推進



かりがね台自治会の公式LINEアカウントのQRコードを読み取りお友達に追加登録をしてください

これまでの成果

- ・防災まちづくりニュースの発行
- ・LINE による防災・防犯の情報発信

今後やること

- ・かりがね台公式 LINE で、まずは、防災・防犯に関する地域独自の情報を（月1回程度を目安に）発信します
→2020 年 3 月現在の LINE 登録者数は 140 名。LINE 登録者を毎年 30 件増やすことを目標にします
- ・避難経路確認を兼ねたハイキング
- ・防災チェックまち歩き

かりがね台地区 防災まちづくりガイドブック

かりがね台自治会の防災まちづくり計画 2020 年 **保存版**

1. まちの課題と方向性

「声を掛け合い 助け合うまち かりがね台」を目指します。

安全に避難できる まちにします

→P.6 1. 避難に関するプロジェクト

- 地区全体が急な斜面に囲まれており、災害時に安全に避難できるルートが限られています。
- 大規模火災時に避難する広域避難場所は生田緑地ですが、距離もあり、そこに至るまでも危険なエリアを通過するなどの問題があります。
- 自治会で、一時避難集合同所を定めていますが、実際にどのように行動すべきかは明確にはなっていません。

火を出さない 広げないまちにします

→P.9 2. 火を出さない、広げないためのプロジェクト

- 当地区は大きな延焼クラスターを形成しているため、災害時には、何よりも火を出さないことが重要となります。一人ひとりの「火を出さない」という意識だけではなく、火を出さないための設備・機材や、火が出ても初期に消火できるような機材・設備とその運用体制が必要となります。

共に助け合える まちを目指します

→P.10 3. 共助のプロジェクト

- 地区内には、アパートなどの多く存在しています。また、平日日中は地区外で働いている人が多いという状況があり、災害時に、誰かに頼るのではなく、すべての人が適切に対応できるような体制を整えていく必要があります。
- 地区内の住民だけではなく、地権者や事業者、周辺の自治会町内会などとも協力・連携していく必要があります。

様々な災害に関する 情報発信を行います

→P.12 4. 防災に関する情報発信のプロジェクト

- アンケートでは、かりがね台地区が延焼クラスターの中に存在することを知っている人が2割程度であることや、30～50歳代の「広域避難場所」の認知度が特に低いなどの状況があります。防災に関する知識の普及や意識を高めていく取組が求められています。

4. 計画の位置づけ

- ・住民・地権者や、事業を行うものは、この計画の実現のために協力してください。
- ・行政とも、この計画をふまえ、協力・連携しながらまちづくりの事業を進めていきます。

5. 計画期間

- ・この計画は、子・孫の代に引き継ぐ長期継続取組を視野に入れています。
- ・まずは3～5年を第1期として、目標等を定め事業を進めていきます。
- ・事業の進捗や状況の変化等、必要に応じて、計画内容の見直しを行っていきます。

かりがね台地区防災まちづくり計画 方針図

1. 避難に関する取組

① 避難ルートに関する取組

-  袋小路となっているなど対策が必要なエリア
-  重要な避難路（避難路の名称をつける必要がある）
-  通り抜けルート（空間として通行可能）
-  通り抜けルートの候補（現在は通行不可）
-  行き止まり道路
-  土砂災害警戒区域
-  危険な箇所
-  まち歩き調査の中で見つけたブロック塀・大谷石の擁壁等
-  避難所・広域避難場所等の方向

② 避難場所等に関する取組

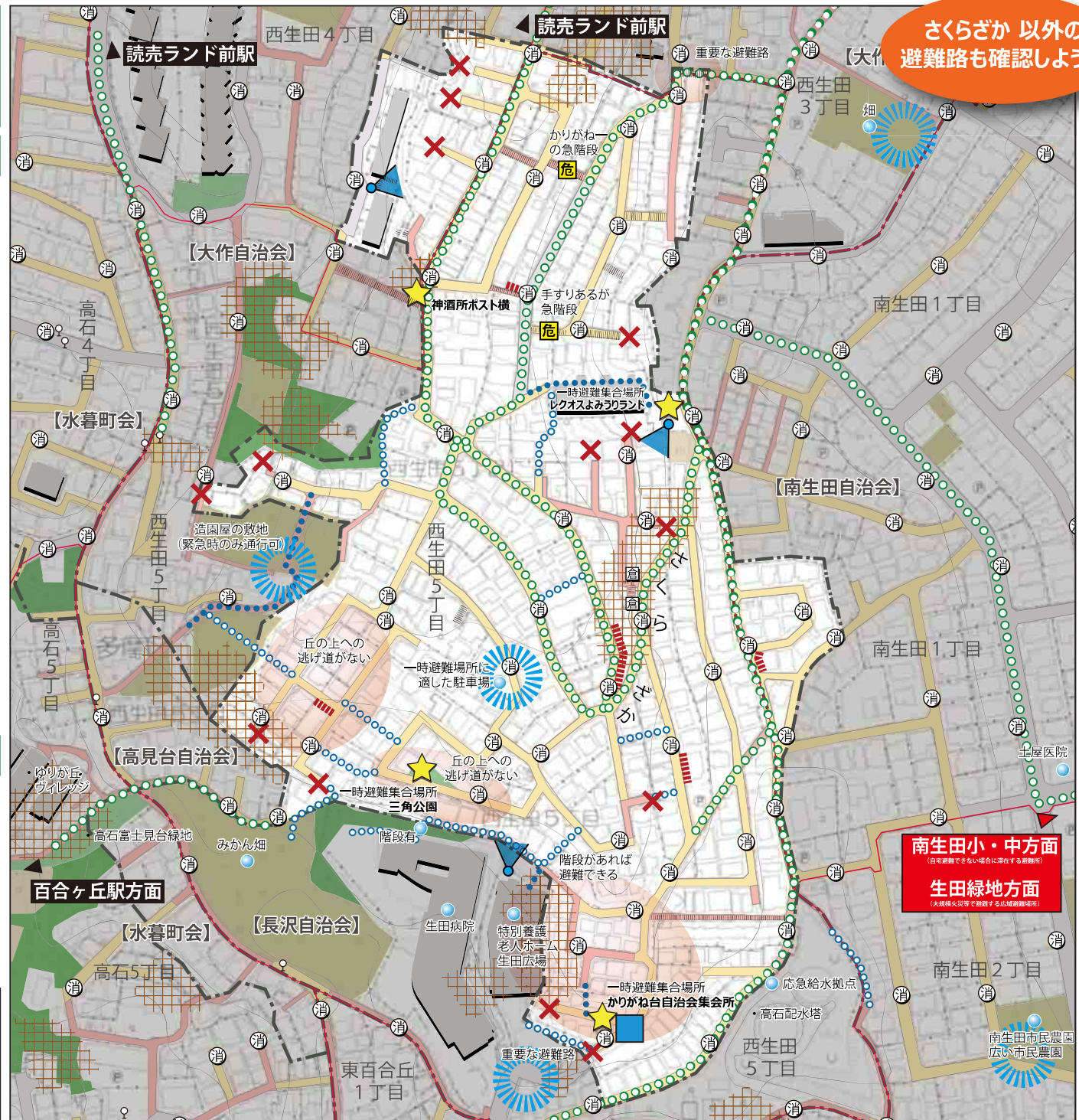
-  一時避難集合場所
-  災害時の状況把握可能な見晴らしの良い場所

2. 火を出さない、広げないための取組

-  災害時に重要なひらけた空間の候補
-  消火ホースキットの配備候補地（今後配備個所も計画的に増やしていく。）
-  物品資源や災害時に役に立つ施設・空間等
-  消火栓
-  防災倉庫

【現況凡例】

-  幅員 4 m 未満の道路（将来拡幅したい道路）
-  幅員 4 - 6 m の道路
-  対象区域
-  町丁目界



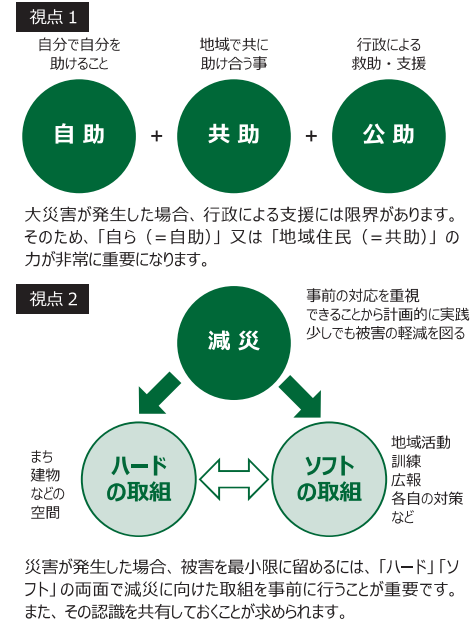
さくらざか 以外の
避難路も確認しよう！

南生田小・中方面
生田緑地方面
(自然避難できない場合に滞在する避難所)

2. 防災まちづくり計画の背景と経緯

- かりがね台地区は、地形の複雑な丘陵地の中に位置しており、1960 年代から宅地化が進んで形成された住宅地です。
- 当地区周辺には、住宅が集積したエリアが広がっています。このような住宅地は、首都直下型地震などの大規模災害の時には、大規模火災となる危険性があります。市のシミュレーションによると、当地区周辺は、3,000 棟以上に延焼が広がる可能性のある**延焼クラスター（※）**が形成されています。そこで、自助・共助・公助がバランスよくそれぞれの役割を発揮し、災害時の被害を少しでも減らす「減災」の取組を計画的に進めていく必要があります。
- 当地区は、川崎市より防災上課題のある地区を改善していく防災まちづくり支援地区に選ばれており、自助・共助と現在の取組を進めていくため、平成 29(2017) 年度から防災まちづくり取組を自治会が中心となって実施してきました。

防災まちづくりの視点



※延焼クラスター（延焼運命共同体）とは

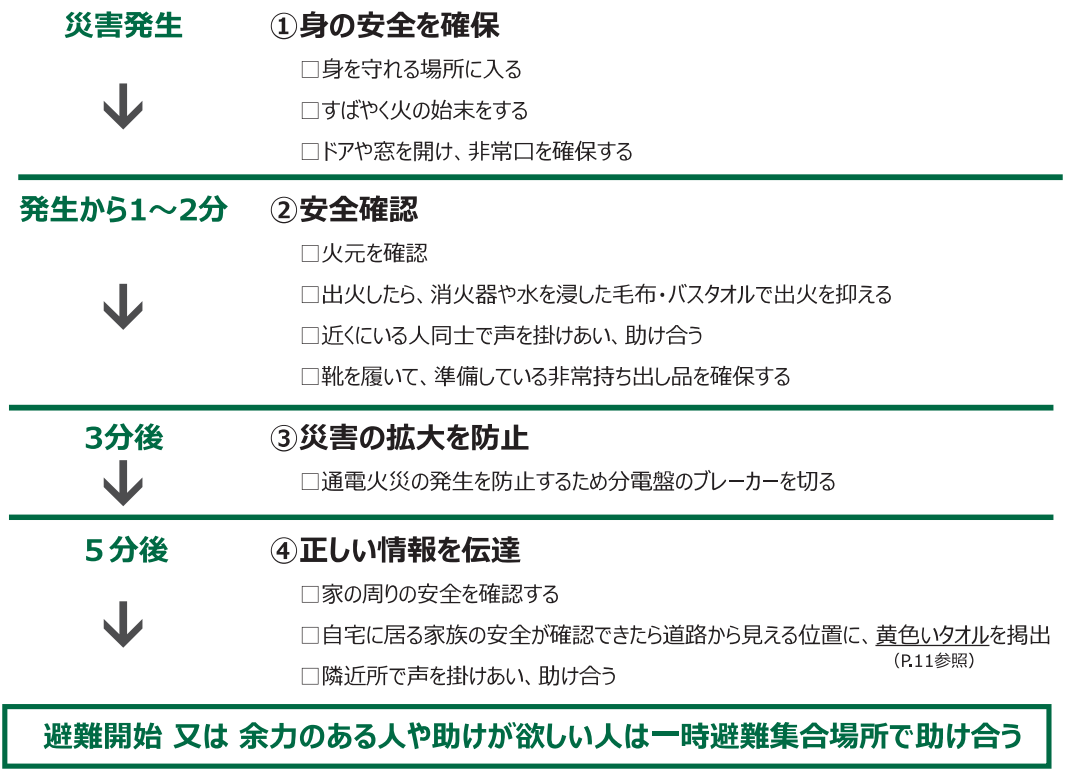


かりがね台地区 延焼クラスター

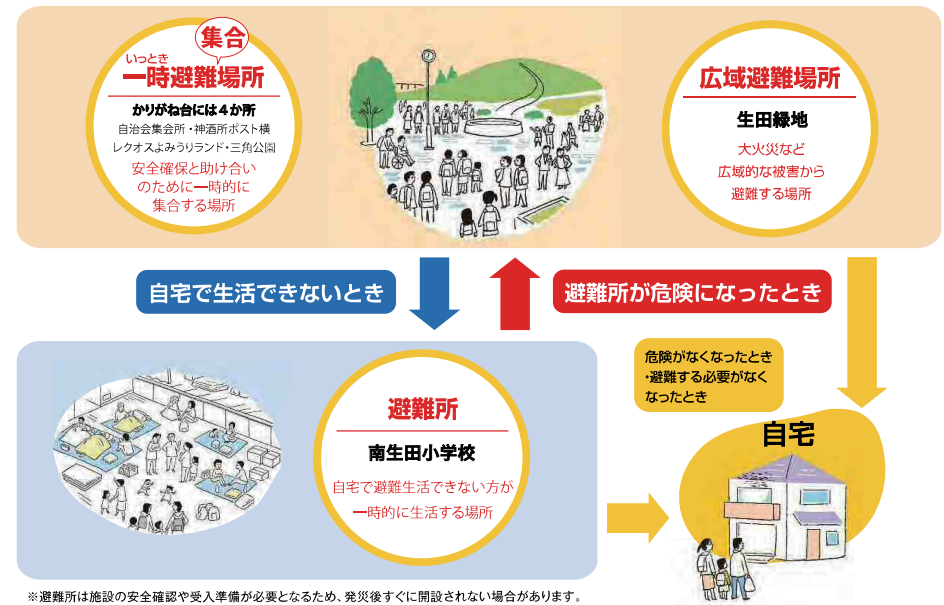
延焼クラスター（延焼運命共同体）とは、地震に伴う火災が、消防活動が全く行われずに放置された場合に延焼が広がってしまう可能性のある範囲（運命共同体）のことです。かりがね台地区は、3,000 棟以上の大きな**延焼クラスター**の中に含まれています。



3. 災害時の個人の行動リスト ～発災時の時間別行動リストに沿って身の安全を確保しましょう～



大災害時の避難場所は状況に応じて3カ所あります



3. プロジェクト

1. 避難に関するプロジェクト

●一時避難集合場所での人と情報のとりまとめ・誘導の体制づくり

自治会では、災害時に地区住民が集合し、情報共有や状況判断を行う場所として、4カ所の一時避難集合場所を指定しています。

各一時避難集合場所では、リーダーを決め、災害時に円滑に避難等ができるよう、日頃から、住民同士のコミュニケーションをとったり、情報収集や状況判断の訓練を行ったりします。

また、災害時にどのように行動すべきかという目安となる防災マニュアルを作り、災害時の状況判断や行動の指針とします。

各一時避難集合場所間など、災害時に離れた場所との意思疎通ができるよう、トランシーバーやLINEの活用などの連絡手段を複数確保し、運用できるよう、体制を整えていきます。



防災訓練では、リーダーと副リーダーの陣頭指揮に沿って、一時避難集合場所同士のトランシーバーを使った通信訓練を実施



●地区全体の安全な避難路の複数確保

当地区は、谷戸状の地形に位置しており、地区外への避難路が限られています。多くの人はさくらみちや駅へ向かう道しか念頭に置いていないため、それら以外の道でも地区外へ抜けられるよう、通り抜け等のルートを確認するとともに、そのルートの名称の決定と普及・情報発信を行っていきます。

●行き止まりのエリアの解消（逃げ道の複数確保）

当地区は、袋小路となっているエリアが存在します。このようなエリアの住民の協力で、災害時に通り抜けられる通路を確保することで、逃げ道を複数確保できるようにします。また、それらの通り抜け通路に、看板を設置したりすることで、逃げ道の周知を図ります。

●避難経路沿いの安全性の向上

避難経路沿いを中心に、道路沿道の安全性を高めていく必要があります。危険なブロック塀の除却や落下や崩落の危険のあるもの等の除却、大谷石等の脆い擁壁の強化など、地権者や住民に改善を働きかけていきます。

また、P.9「災害時に重要なひらけた空間等の確保」にとあわせて、一時避難集合場所の追加指定なども進めています。

これまでの成果

- ・防災チェックまち歩き
- ・避難路についての地権者との折衝
- ・各一時避難集合場所のリーダー決定
- ・避難等の際の参考になる「個人（P.5）」と「一時避難集合場所（P.7）」の行動リストづくり

今後やること

- ・地区全体の避難路の確保
- ・避難路の名称をつける
- ・年1回の机上訓練による実践的な対応策の検討
- 行動リストの点検を行い、一時避難集合場所のリーダーと本部の役割を習得する

災害時の一時避難集合場所の行動リスト

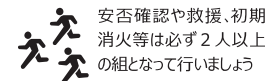
～安全確保と助け合いのために隣近所で声を掛けあいましょう～

①一時避難集合場所に集合

- ☐ 安全を確保しつつ、「余力のある人」と「助けが欲しい人」が一時避難集合場所に集まります
- ☐ リーダーとサブリーダーは、トランシーバー等を持って、一時避難集合場所で陣頭指揮をとります

②ブロックの状況を把握し、助け合う

- ☐ リーダーとサブリーダーは、他のブロックと被災情報を共有します
 - ・火災、延焼の状況
 - ・避難路の状況
 - ・本部(自治会集会所)に情報を集約します。(集会所が被災した場合は別の一時避難集合場所へ移動します)
- ☐ 安否確認
 - ・頼りになる人は、ブロック内の安否(黄色いタオルP.11参照)確認と救援を行う
- ☐ 初期消火
 - ・頼りになる人は、避難路を確保するように、初期消火に努める



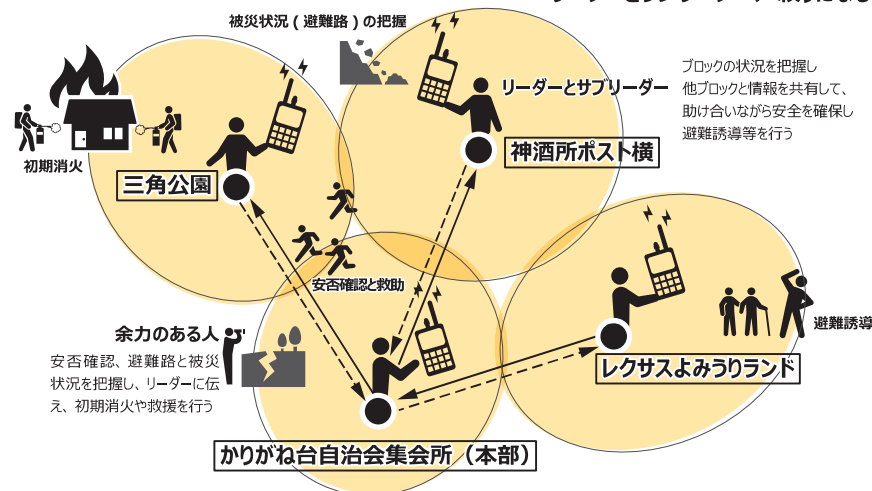
③避難の判断～避難開始～

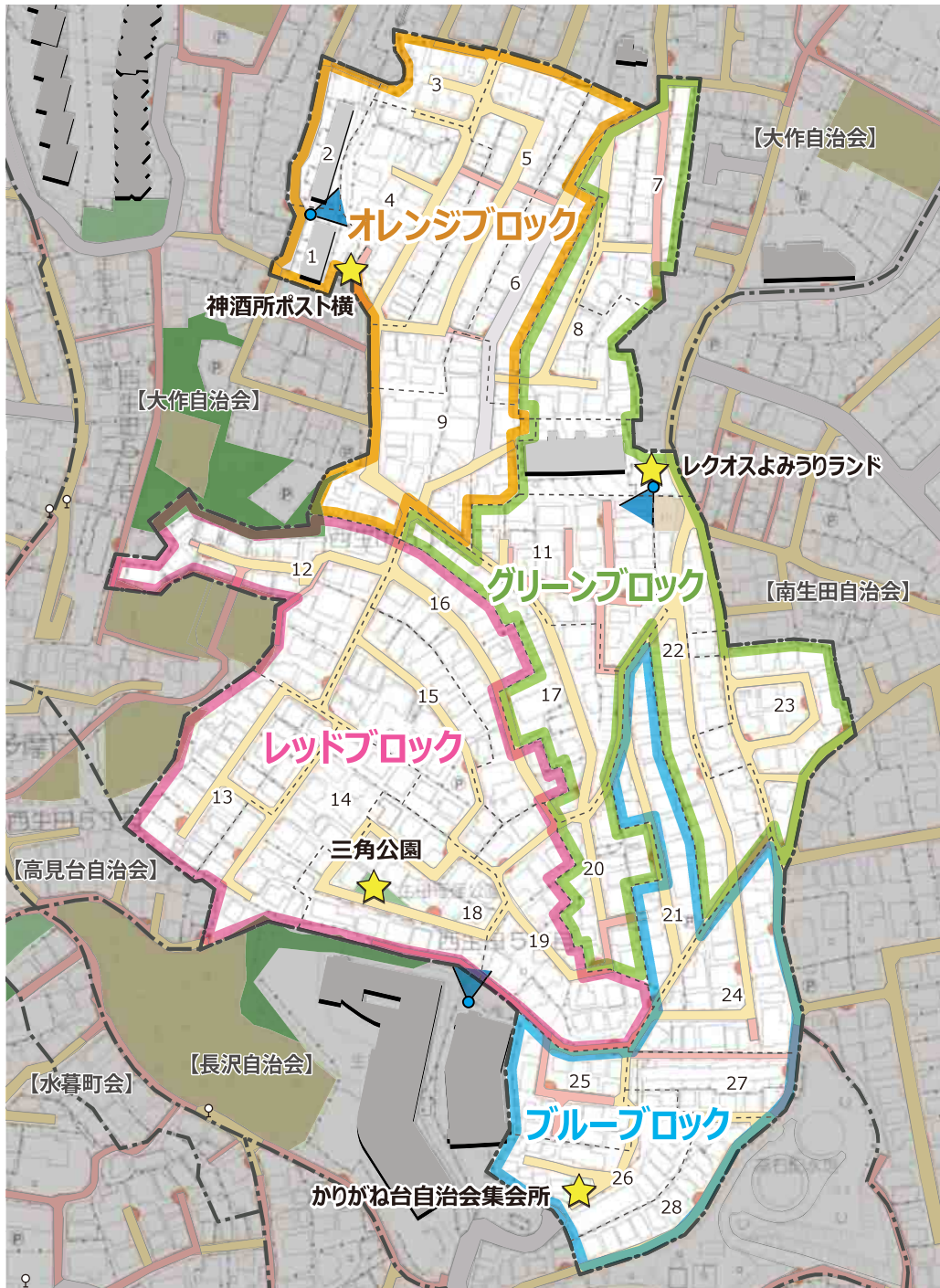
- ☐ 避難経路を判断
- ☐ 延焼拡大（初期消火が不可能）となったら広域避難所（生田緑地）への避難を開始

④避難所・広域避難場所に避難（状況に応じて在宅避難）

- ☐ 避難が完了した旨をリーダー間で共有する（電話、伝言ダイヤル171、LINE、トランシーバー）

リーダーとサブリーダー、頼りになる人の役割





2. 火を出さない、広げないためのプロジェクト

●感震ブレーカーの普及・共同購入

地震時の火災の原因の大部分を占める電気による火災を防ぐため、感震ブレーカーの普及を目指します。感震ブレーカーの認知度を高めるための PR 活動を進めるとともに、町内会での共同購入や取付のサポートなど、より多くの人が感震ブレーカーを導入できるように努めます。

また、消火器設置や、火災報知器の設置徹底と適切な時期の更新など、自宅のできる火災の対策の普及を推進します。

●消火ホースキットの配備と活用訓練の実施

大規模災害時の初期消火を地域住民で行えるよう、消火ホースキットを適切な位置に計画的に配備していきます。また、消火ホースキットを多くの人が使えるように、訓練等を行っていきます。

消火栓の位置を把握し、いざというときにすぐに活用できるよう日頃から目に触れる掲示板上に防災マップを表示したりします。

●災害時に重要なひらけた空間等の確保

災害時の延焼の被害の軽減などに資するようひらけた空間や、一時避難場所等の確保について、地権者や行政などの協議を積極的に働きかけていきます。



感震ブレーカーの説明を聞く自治会メンバー



自治会集会所に設置した感震ブレーカー



消火ホースキットで自分たちで初期消火を行えるようになります。

これまでの成果

- ・お祭り等での感震ブレーカーのPR
- ・自治会集会所に感震ブレーカーを設置
- ・感震ブレーカーの共同購入と取付サポートの第1回受付

今後やること

- ・感震ブレーカーの共同購入と取付サポート（第2回）
- ・消火器の設置世帯数の調査と設置の推奨
- ・消火ホースキットの配備と訓練

3. 共助のプロジェクト

●安否確認の仕組み・体制づくり

地区内に向けて行ったアンケートでは、地区の約 1 割が一人世帯という結果が出ました。また、当地区には高齢者も多く居住しています。（同アンケートでは、回答者の約半数が 60 代以上という結果。）

災害時には、住民の安否確認をできる限り迅速に行い、限りある人的資源を有効に使うことが求められます。そのために、「黄色いタオル」による安否確認の仕組みを導入しました。

今後は、班ごとに安否確認のテストを行うなどの工夫を行いながら周知徹底に努めます。

●地権者・事業者やマンション管理 組合等との連携

避難路の確保や避難路沿いの安全性の確保、感震ブレーカーの共同購入など、各取組について、必要に応じて地権者や事業者、マンション管理組合等と連携を行っていき、各部分の改善を進めていきます。

●ひとつの延焼クラスターを形成している

近隣自治会・町内会との連携

当地区は、大きな延焼クラスターの中に位置しており、周辺の自治会・町内会とともに、延焼クラスターの解消に努めていく必要があります。また、地区外への避難にあたっては周辺自治会・町内会などと情報共有などを行っていく必要があります。



「黄色いタオル」を全戸配布しています。お手元にタオルがない方は、防災まちづくり実行委員会までお問合せください。



隣接地権者との協力で緊急時は通り抜けができるようになった造園屋敷地内の通路

黄色いタオルを使った安否確認

「黄色いタオル」を使った安否確認は、大地震が発生した場合に実施します。大地震が発生した際、救助者が最初に行うのが「安否確認」と「救助」です。「黄色いタオル」は、救助者が迅速に安否確認を行うために、「我が家は無事」だから「他の人を助けてあげて欲しい」という目印として考え出されました。現在では、全国各地で導入されています。

迅速に安否確認を行い、「助かる命を皆で救う」ため、かりがね台自治会としても、「黄色いタオル」を使った安否確認の仕組みを導入し、防災訓練などを通じて、普及に努めています。

黄色いタオルの使い方

- ① 普段は玄関などのわかりやすい場所に置いておきます
- ② 大きな地震がきたら、家に居る方の全員の無事が確認できたら黄色いタオル（＝我が家は無事の目印）を道路から見える場所に掲げてください
- ③ 安否確認の訓練が終わった後は、災害時に使えるようわかりやすい位置に黄色いタオルを保管してください



黄色いタオルはかりがね台自治会の皆さんの防災グッズです！



黄色いタオルが安否確認をスピードアップします

迅速な安否確認で、助かる命を救いましょう！



目印がないと・・・

応答があるまで無事かどうかがわかりません



我が家は無事です！



黄色いタオルがあると・・・

ピンポンを押さなくても道路から一目で無事とわかります

無事です！



よっ次に行こう